

3月号·令和5年3月1日発行

本校URL

http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/ 武藏村山市主第五中学校

若い世代に託す未来

正門前の梅の花が咲き誇り、春の訪れを感じる頃となりました。3月の呼び名は、和風月名では 「弥生(やよい)」です。語源は諸説あるようですが、「弥生(いやおい)」が次第に変化して「や よい」になったという説が有力です。これは、「木草弥や生い茂る月」(きくさ いや おいしげ る つき)という言葉がもとになったと言われています。「弥生」の「弥」は、「いや」と読み、 物事が「いよいよ」「ますます」(高まる)という意味です。「生」(おい)は、草や木が芽吹く 様子を表します。つまり、「弥生」は「草木がいよいよ生い茂る月」ということになります。これ から、野山北・六道山公園など自然豊かな武蔵村山市で草木が芽吹き、花開くのが楽しみです。

さて、1月下旬に3年生の社会科の授業を参観する機会がありました。「持続 可能な社会を目指して」という単元で、この時間の目標は、「『持続可能な社会』 の実現に向けて、私たちはどのように行動すべきか」を考えることでした。今ま



で学んできた身近な地域の生活や日本の取組を、世界的な視野と地域的な視点に立って探求しまし た。この学習は、SDGsの11番目の目標、「住み続けられるまちづくり」とも関連しています。

「持続可能なまち」とはどのような「まち」なのかを考える導入として、武蔵村山市の特色を再 確認する動画を視聴しました。この動画は、第三小学校6年生がつくった武蔵村山市のPRソング 「むらやま Wonderful」でした。市の特色である「デエダラまつり」「かたくりの湯」「大島紬」 「ひまわりガーデン」「かてうどん」などが軽快なリズムに乗って歌われています。この動画を見 たあと、改めて SDG s を意識した武蔵村山市の「持続可能なまちづくり」について意見交換しまし た。そして、子供たちが考案した実現したい「アイディア」について、メリット、デメリットを話 し合いました。そのアイディアは、「食品ロスやゴミ削減のために給食のメニューを改革する」「マ イ箸、マイスプーンを持参する」「CO2削減のため学校などの施設に太陽光パネルを増やす」「小 学校、中学校、高校、大学、企業が交流し、地域の魅力を発信する」「学校の総合的な学習の時間 で農業を学び、食糧自給率を改善する」「MMシャトルを電気自動車にし、モノレールと結び付け る」「モノレール会社と連携し、駅にMMアンテナショップをつくる」などです。子供たちはこれ らのアイディアについて、「ゴミや CO2の削減ができる、公共電力が増える、若い人に知ってもら える、人口が増える、経済がまわる」などの利点と、「費用がかかる、手間や時間がかかる、スペ ース面で設置が難しい」などの課題を出し合いました。武蔵村山市の未来について、子供たちが素 敵なアイディアをもち、真剣に話し合っている姿を見てとても頼もしく思いました。

ところで、昨年12月に小池都知事より多摩都市モノレールの市内延伸について、「2030年 代半ばの開業を目指していく」という表明がありました。十年後を見据え、来年度より市内の小中 学校では将来武蔵村山市を支える世代となる現児童・生徒を対象に「まちづくり学習」を始めます。 本市には、豊富な自然、素晴らしい人材、伝統文化などの財産があります。自分たちが住んでいる 地域を知り、「駅」を中心にしたどんな「まち」をつくっていくのか、これからの若い世代に未来 が託されている気がします。3年生が考えた様々なアイディアはとても素晴らしいと思います。こ れから五中を巣立っていく3年生の皆さん、これまでの学習を生かし、地域に貢献できる人になっ てください。そして、武蔵村山市の魅力を発信、発展させる活躍を期待しています。卒業おめでと うございます!



第五中学校体罰防止標語: チーム五中で 心に響く 生徒指導